

スーパーマーケット販売統計調査資料

2017 年 10 月実績 速報版(パネル 270)

9 月実績 確報版(パネル 270)

(2017 年 11 月 21 日公表)

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016 年 4 月実績よりパネル対象企業変更(275 社→270 社)

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮 3 部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚げ物、弁当、おにぎり、寿司、インスタペーカーリー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
	非食品		日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具	
	その他		テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業 (DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)	

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014 年 4 月実績よりエリア区分を 8 地方区分による 6 地方に変更

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2017年11月21日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2017年10月実績 速報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
総売上高	87,940,350	100.0%	99.3%	98.1%
食品合計	79,003,128	89.8%	99.5%	98.3%
生鮮3部門合計	29,884,002	34.0%	97.7%	96.3%
青果	11,872,516	13.5%	91.0%	89.8%
水産	7,344,292	8.4%	97.4%	95.9%
畜産	10,667,193	12.1%	106.7%	104.9%
惣菜	8,793,913	10.0%	99.0%	97.0%
日配	17,316,839	19.7%	100.4%	99.8%
一般食品	23,008,374	26.2%	101.6%	100.2%
非食品	6,594,033	7.5%	98.1%	97.9%
その他	2,343,236	2.7%	96.2%	96.0%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
北海道・東北地方	12,110,735	43	99.5%	98.5%
関東地方	32,526,831	73	99.7%	98.4%
中部地方	10,742,496	53	98.1%	97.2%
近畿地方	18,842,885	44	99.0%	98.1%
中国・四国地方	8,776,513	34	97.6%	95.9%
九州・沖縄地方	4,940,891	23	102.7%	100.3%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
1～3店舗	726,109	46	96.2%	96.2%
4～10店舗	3,853,858	71	98.1%	97.2%
11～25店舗	10,053,401	64	99.3%	97.2%
26～50店舗	15,858,960	45	98.5%	97.6%
51店舗以上	57,448,022	44	99.6%	98.5%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	85,808,927
総店舗数（店舗）	7,867	店舗平均月商（万円）	11,178
総売場面積（㎡）	13,062,103	売場1㎡あたり売上高（万円）	6.7

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2017年11月21日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2017年9月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	86,277,343	100.0%	101.6%	100.1%
食品合計	77,797,056	90.2%	101.8%	100.3%
生鮮3部門合計	29,572,238	34.3%	101.2%	99.5%
青果	12,304,273	14.3%	99.5%	98.0%
水産	7,278,214	8.4%	98.4%	96.7%
畜産	9,989,750	11.6%	105.6%	103.7%
惣菜	8,747,479	10.1%	101.6%	99.5%
日配	17,019,561	19.7%	102.0%	100.9%
一般食品	22,457,779	26.0%	102.5%	101.3%
非食品	6,155,412	7.1%	100.0%	99.8%
その他	2,324,918	2.7%	97.2%	98.8%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	11,844,620	43	101.8%	100.4%
関東地方	31,813,975	73	101.9%	100.5%
中部地方	10,513,299	53	101.1%	99.8%
近畿地方	18,625,695	44	100.3%	99.4%
中国・四国地方	8,608,554	34	100.8%	98.5%
九州・沖縄地方	4,871,201	23	106.0%	102.8%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1～3店舗	704,806	46	98.0%	98.0%
4～10店舗	3,747,597	70	100.8%	99.4%
11～25店舗	9,843,593	65	101.6%	99.4%
26～50店舗	15,446,520	45	100.5%	99.2%
51店舗以上	56,534,827	44	101.9%	100.5%

集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	84,163,992
総店舗数 (店舗)	7,860	店舗平均月商 (万円)	10,977
総売場面積 (㎡)	13,044,780	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.6

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2017年10月エリア別気候状況

1. 月の気温：寒気の影響を受ける日が多かった北日本では低かった

上旬：沖縄・奄美でかなり高く、東・西日本で高かった。北日本では平年並だった。

中旬：北日本ではかなり低く、東日本は低かった。一方、沖縄・奄美ではかなり高かった。

下旬：全国的に平年並だった。

2016年10月との比較：上旬は北海道を除いて低く、中旬は東日本を中心に、下旬は西日本でかなり低くなった

	平年との比較 (℃)						今年と前年との差 (℃)		
	2017年10月			2016年10月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	0.4	-3.0	0.1	0.2	-0.2	-3.1	0.2	-2.8	3.2
東北地方	0.3	-1.6	0.7	1.5	-0.1	-0.9	-1.2	-1.5	1.6
関東甲信地方	0.7	-1.1	-0.1	3.0	0.7	0.4	-2.3	-1.8	-0.5
北陸地方	0.6	-0.4	0.0	2.1	0.3	-0.4	-1.5	-0.7	0.4
東海地方	0.7	-0.4	0.1	2.6	0.9	0.9	-1.9	-1.3	-0.8
近畿地方	0.7	-0.4	-0.1	2.9	1.1	0.7	-2.2	-1.5	-0.8
中国地方	0.8	0.2	0.0	2.9	0.8	1.1	-2.1	-0.6	-1.1
四国地方	0.8	-0.2	-0.2	3.2	1.6	1.7	-2.4	-1.8	-1.9
九州北部	1.5	0.6	0.3	3.5	1.4	2.1	-2.0	-0.8	-1.8
九州南部・奄美地方	1.9	1.3	0.3	3.3	1.5	2.6	-1.4	-0.2	-2.3

平年差

+2℃以上

+1℃以上

-2℃以上

-1℃以上

前年差

+2℃以上

+1℃以上

-2℃以上

-1℃以上

2. 月の日照時間：北・東・西日本では月間日照時間がかなり少なかった

上旬：北日本日本海側でかなり少なく、東・西日本日本海側で少なかった。一方、沖縄・奄美ではかなり多かった。

中旬：北日本太平洋側と東・西日本ではかなり少なく、北日本日本海側と沖縄・奄美では少なかった。□

下旬：東日本日本海側でかなり少なく、北・東日本太平洋側と西日本および沖縄・奄美で少なかった。一方、北日本日本海側では多かった。

2016年10月との比較：中旬は東日本を中心にかなり少なくなった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2017年10月			2016年10月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	95	92	115	88	117	72	7	-25	43
東北地方	83	49	73	101	127	102	-18	-78	-29
関東甲信地方	114	37	71	79	114	91	35	-77	-20
北陸地方	86	47	60	79	118	84	7	-71	-24
東海地方	91	38	70	63	106	72	28	-68	-2
近畿地方	92	30	70	80	98	67	12	-68	3
中国地方	94	31	78	81	80	52	13	-49	26
四国地方	95	28	87	94	62	64	1	-34	23
九州北部	91	26	93	83	49	51	8	-23	42
九州南部・奄美地方	112	45	84	91	38	82	21	7	2

平年差

平年比150%以上

平年比125%～149%

平年比50%以下

平年比51%～75%

前年差

+50%以上

+25～49%

-50%以下

-25～-49%

3. 月の降水量：北日本太平洋側と東・西日本では月降水量がかなり多かった

上旬：東日本日本海側でかなり少なく、北・東日本太平洋側と西日本および沖縄・奄美で少なかった。一方、北日本日本海側では多かった。

中旬：東日本太平洋側と西日本日本海側でかなり多く、北・西日本太平洋側と沖縄・奄美で多かった。

下旬：北・東・西日本でかなり多く、沖縄・奄美で多かった。

2016年10月との比較：中旬以降、全国的にかなり多い降水量となった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2017年10月			2016年10月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	47	92	230	107	65	68	-60	27	162
東北地方	47	141	422	114	23	66	-67	118	356
関東甲信地方	75	284	695	44	58	68	31	226	627
北陸地方	60	89	373	129	41	70	-69	48	303
東海地方	123	262	824	69	101	90	54	161	734
近畿地方	139	212	1016	68	76	67	71	136	949
中国地方	264	210	604	114	114	65	150	96	539
四国地方	129	241	915	89	62	123	40	179	792
九州北部	303	392	368	287	79	328	16	313	40
九州南部・奄美地方	76	117	456	188	97	295	-112	20	161

平年差

平年比150%以上

平年比125%～149%

平年比50%以下

平年比51%～75%

前年差

+50%以上

+25～49%

-50%以下

-25～-49%

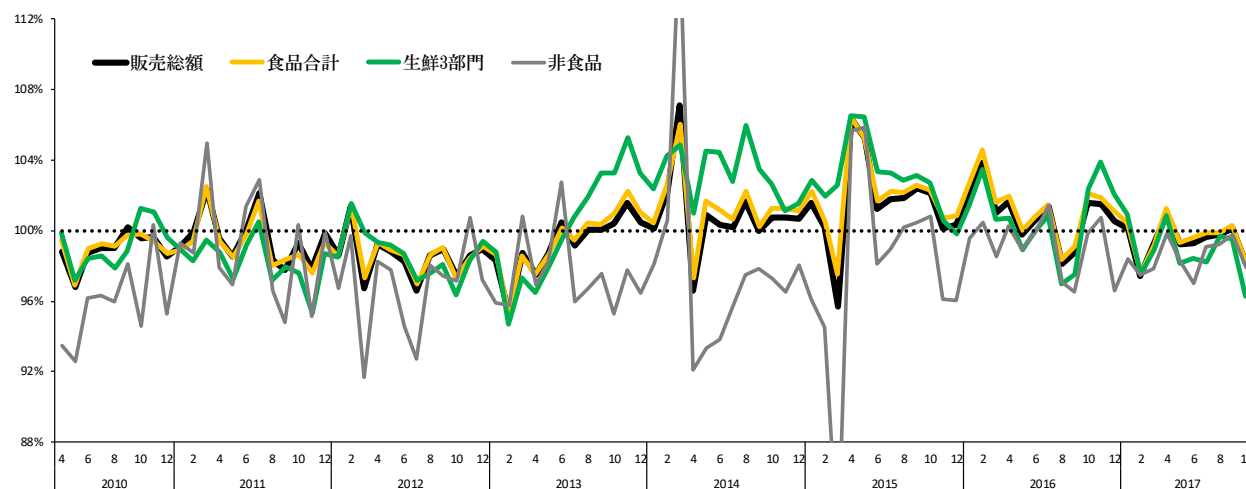
気象庁ホームページ・報道発表資料「10月の気候」参照

平年値は過去30年（1981年～2010年）の平均

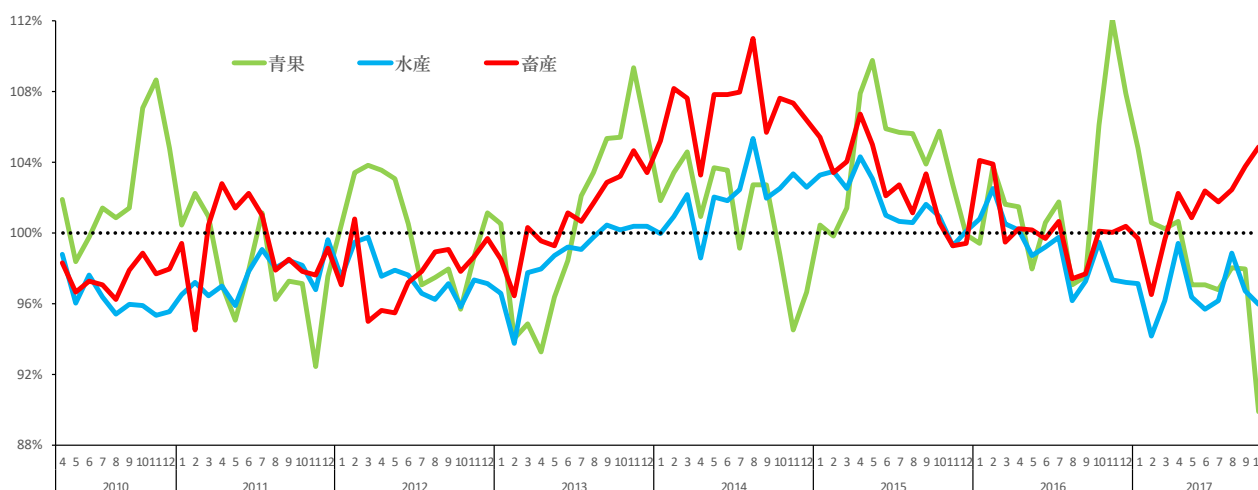
スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2010年4月～

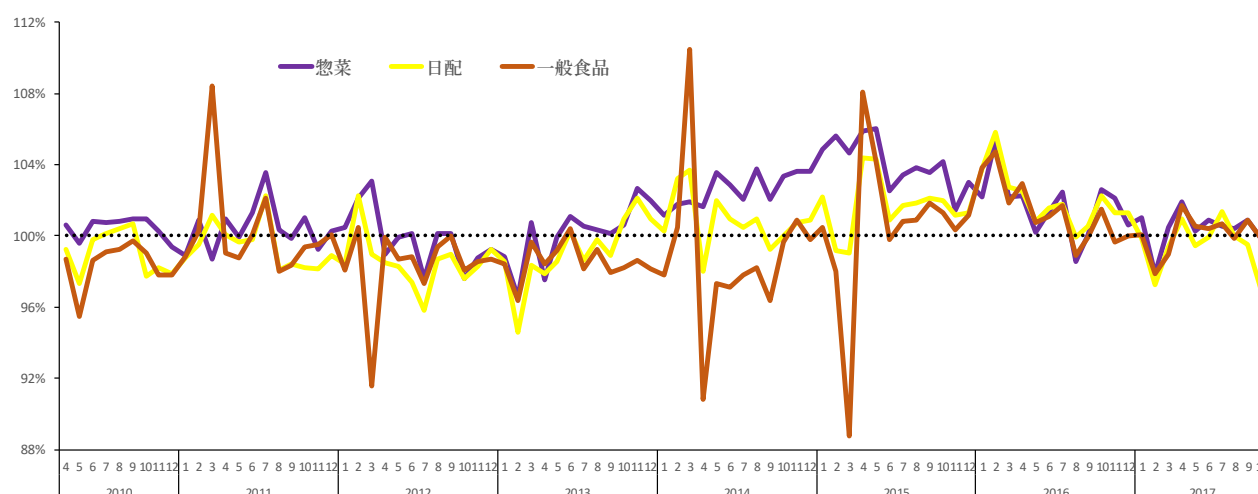
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2017年9月までは確報版による前年同月比、2017年10月は速報版による前年同月比

スーパーマーケット景気動向調査

2017 年 11 月調査結果（10 月実績）
（2017 年 11 月 21 日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」

スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」

スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

11月調査（10月実績）結果概況

景気判断 DI は現状判断、見通し判断共に悪化

11月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断 DI 現状判断は前月から-3.9の41.0、見通し判断も前月から-2.3の39.6となり、どちらも大幅な悪化となった。

経営動向調査では、売上高 DI が-17.4、収益 DI は-13.4と2桁のマイナスまで低下した。週末に台風が接近するなど天候不順に加え、土曜日が一日少ない曜日巡りの影響で、来客数 DI が-18.7と大きく低下したことが影響している。

カテゴリー動向調査では、前年高騰した青果相場の反動により青果 DI が-31.5とマイナス幅が大きく、サンマや秋鮭不漁の影響を受けた水産 DI や秋の行楽需要に影響があった惣菜 DI、他業態との競合が厳しい非食品 DI が2桁のマイナスとなった。一方で、気温低下による鍋物需要の高まりや水産カテゴリーからの需要シフトで畜産 DI が11.9と好調となった。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査ではすべての DI が前月に比べ悪化した。特に他の DI に比べ、中核店舗の景気判断 DI の悪化が顕著であり、見通し判断では2016年9月以来となる30台を記録するなど、スーパーマーケットを取り巻く環境には厳しい見方が続いている。（周辺地域景気動向 DI 長期傾向参照）

今月は曜日巡り、週末を中心に悪天候による来客数減、生鮮相場などスーパーマーケットにとって厳しい環境が重なった。そのため、足元で継続してきたゆるやかな回復基調の変化ではなく、一過性のものとみられる。マクロ指標でも消費の底堅さがみられており、次月以降の動向に注目したい。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月： 41.0 (-3.9) 前月：44.9	消費者購買意欲DI 当月： 43.6 (-1.9) 前月：45.4	周辺地域 競合状況DI 当月： 40.1 (-1.0) 前月：41.1	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 45.7 (-1.5) 前月：47.2
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月： 39.6 (-2.3) 前月：41.8	消費者購買意欲DI 当月： 43.1 (-0.0) 前月：44.1	周辺地域 競合状況DI 当月： 38.3 (±0.0) 前月：38.3	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 45.7 (-1.7) 前月：47.3
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：-17.4 (-10.5) 前月：-6.9	客単価DI 当月：3.5 (+2.6) 前月：0.9	来客数DI 当月：-18.7 (-7.9) 前月：-10.8	
収益DI 当月：-13.4 (-5.0) 前月：-8.4	販売価格DI 当月：-3.9 (-5.1) 前月：1.2	生鮮品仕入原価DI 当月：0.0 (-5.1) 前月：5.1	食品仕入原価DI 当月：1.2 (-1.9) 前月：3.1

カテゴリー動向

青果DI 当月：-31.5 (-18.6) 前月：-12.9	水産DI 当月：-18.4 (+1.2) 前月：-19.5	畜産DI 当月：11.9 (+4.2) 前月：7.7	
惣菜DI 当月：-10.2 (-5.0) 前月：-5.1	日配DI 当月：-7.6 (-2.7) 前月：-4.9	一般食品DI 当月：-5.6 (-3.5) 前月：-2.1	非食品DI 当月：-11.3 (-2.1) 前月：-9.1

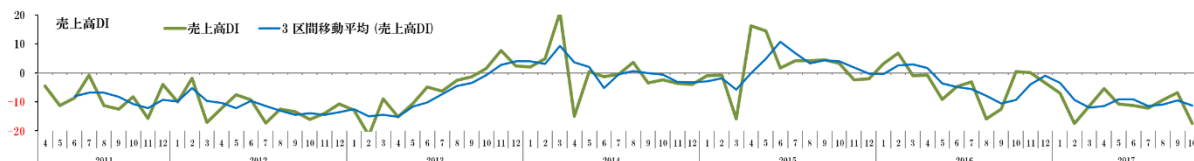
○ 内は前月 DI との増減、赤字はマイナス

11月調査（10月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高DI

当月大きく下落するなどマイナス圏での推移が続く

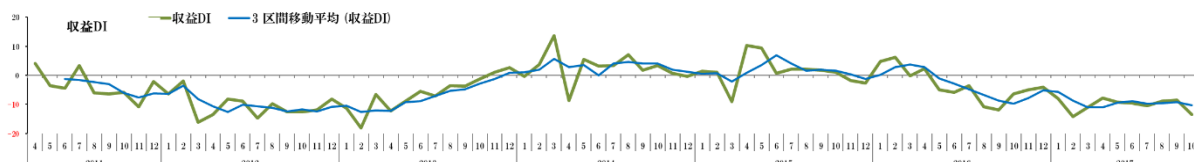
回答構成比（％）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	9.7	34.2	31.1	24.0	1.0	-6.9
売上高（当月）	19.5	42.5	27.0	9.8	1.1	-17.4



2. 収益DI

当月大きく下落するなどマイナス圏での推移が続く

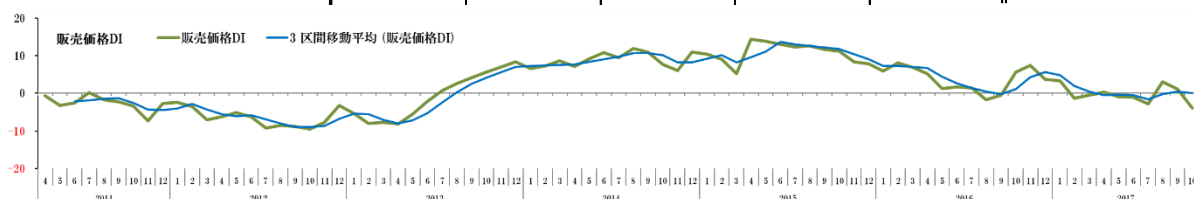
回答構成比（％）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	11.4	35.8	30.6	19.7	2.6	-8.4
収益（当月）	16.3	37.2	32.0	12.8	1.7	-13.4



3. 販売価格DI

再びマイナス圏に落ち込むなど頭の重い推移が続く

回答構成比（％）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.0	12.8	69.7	17.4	0.0	1.2
販売価格（当月）	1.7	25.4	60.1	12.1	0.6	-3.9



4. 客単価DI

プラス圏維持し底堅い動きが続く

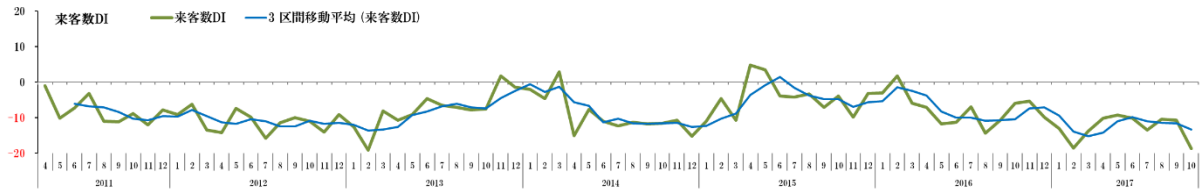
回答構成比（％）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	1.6	20.2	51.3	26.9	0.0	0.9
客単価（当月）	1.2	18.0	47.7	32.0	1.2	3.5



5. 来客数 DI

当月大きく下落するなど弱含みな推移が続く

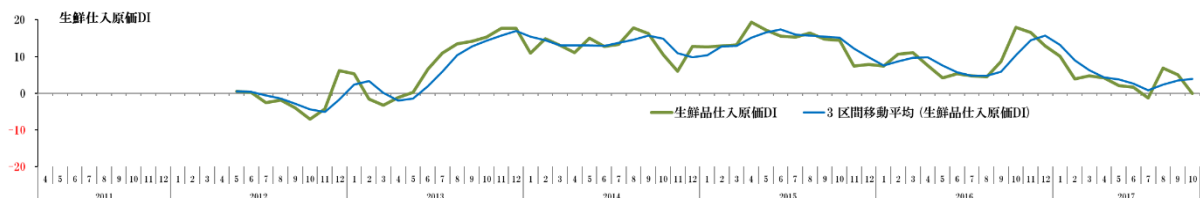
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	9.7	40.0	34.9	14.4	1.0	-10.8
来客数 (当月)	15.8	50.9	26.9	5.3	1.2	-18.7



6. 生鮮仕入原価 DI

2 か月連続でプラス圏後、再び低下

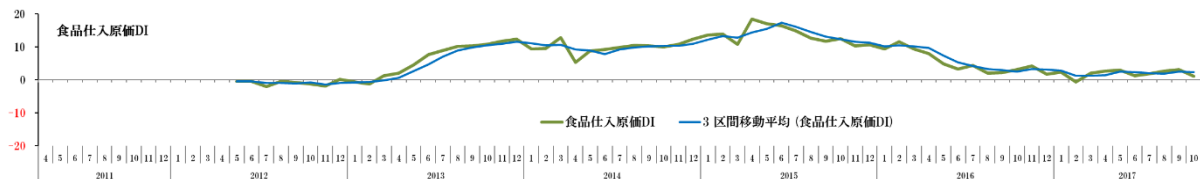
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	3.1	10.4	52.3	31.6	2.6	5.1
生鮮仕入原価 (当月)	9.4	15.2	44.4	28.1	2.9	0.0



7. 食品仕入原価 DI

わずかなプラス域で横ばいでの推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	3.1	8.2	63.4	23.7	1.5	3.1
食品仕入原価 (当月)	3.5	9.3	68.6	16.3	2.3	1.2

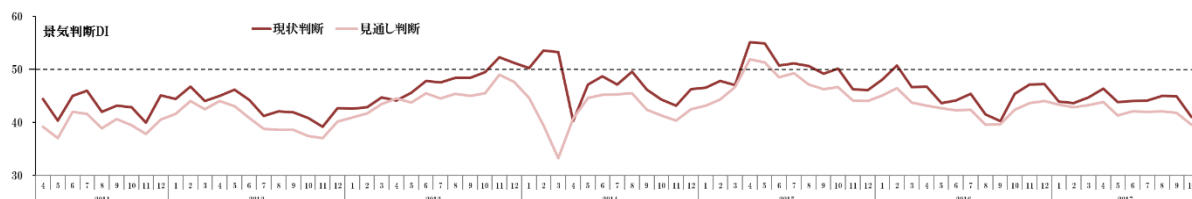


Ⅱ．景況感調査（2011年4月～／周辺地域景気判断のみ2010年4月～）

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断、見通し判断共に大きく悪化

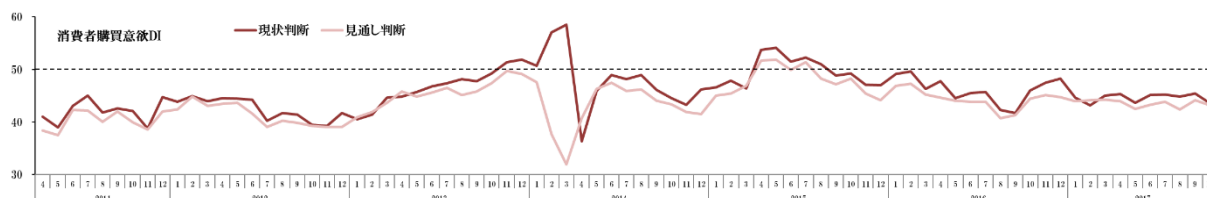
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断（前月）	1.5	26.4	64.0	7.1	1.0	44.9
【現状】景気判断（当月）	2.3	36.0	57.1	4.6	0.0	41.0
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断（前月）	2.6	32.7	59.7	5.1	0.0	41.8
【見通し】景気判断（当月）	2.9	39.4	54.3	3.4	0.0	39.6



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に悪化

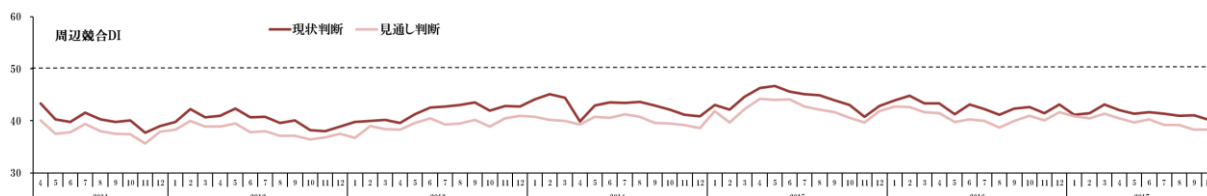
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲（前月）	0.0	25.4	68.5	5.1	1.0	45.4
【現状】購買意欲（当月）	0.6	31.4	61.7	5.7	0.6	43.6
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲（前月）	0.0	26.0	71.4	2.6	0.0	44.1
【見通し】購買意欲（当月）	0.0	33.1	61.1	5.7	0.0	43.1



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断とも大きな変化はみられず

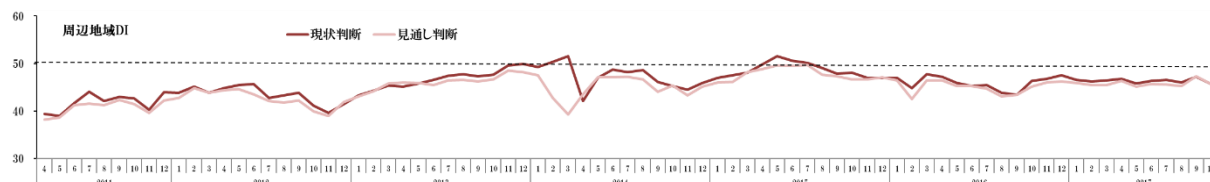
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況（前月）	4.6	30.5	60.9	4.1	0.0	41.1
【現状】競合状況（当月）	4.0	33.1	61.1	1.7	0.0	40.1
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況（前月）	7.1	34.0	57.4	1.5	0.0	38.3
【見通し】競合状況（当月）	6.3	35.4	57.1	1.1	0.0	38.3



4. 中核店舗周辺地域景気判断 DI

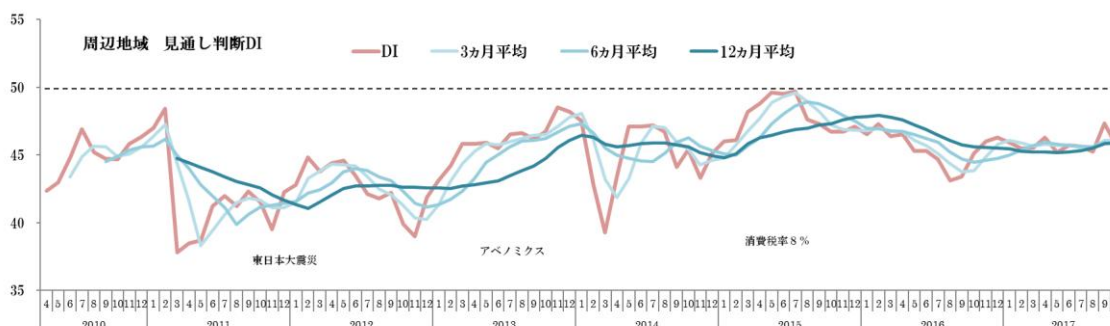
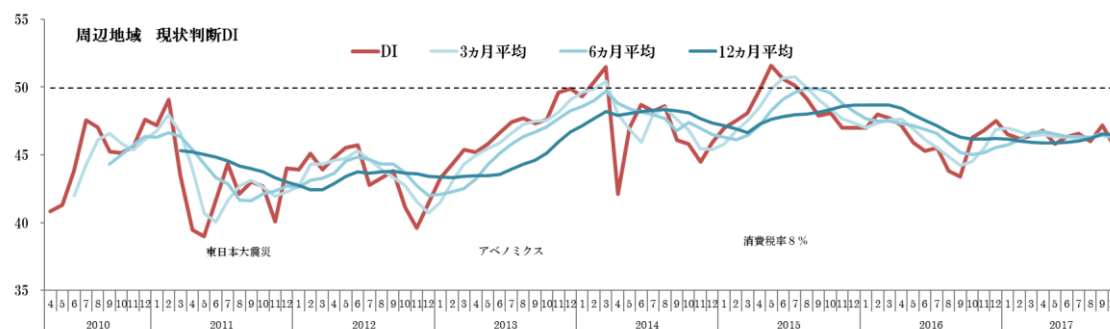
現状・見通し判断共に悪化も他の DI に比べ高水準は維持

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.0	13.3	84.7	2.0	0.0	47.2
【現状】地域景気 (当月)	0.6	17.9	79.8	1.7	0.0	45.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.0	13.8	83.2	3.1	0.0	47.3
【見通し】地域景気 (当月)	0.6	19.1	77.5	2.9	0.0	45.7



長期傾向 (2010 年 4 月～)

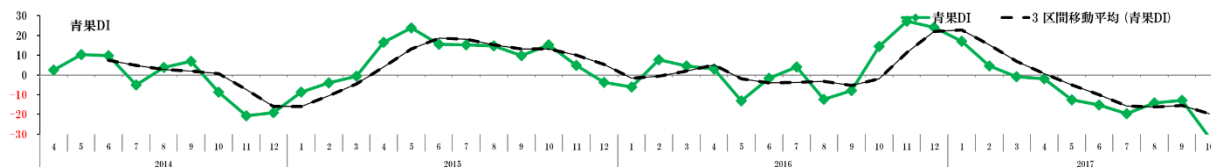
2012 年 11 月以降改善傾向を続けていた「中核店舗周辺地域景気判断 DI」は、2014 年 4 月の消費税率引き上げの影響を受け大きく下落した。5 月に一旦持ち直したものの、6 月～8 月まで横ばい推移、9 月に再び悪化した。その後、年末から 6 ヶ月連続で改善し、2015 年 5 月には調査開始以来の最高水準まで改善をみせた。これをピークに 6 月以降悪化傾向が続き 11 月は下落の速度が早まった。12 月～2 月は横ばいで推移したものの、2016 年 3 月以降悪化をみせ、8 月には大きく下落した。直近 9 月に下げ止まりをみせ、12 月まで小幅な改善が続いた。2017 年に入り、直近は 12 ヶ月移動線付近で下げ止り、横ばい推移が継続していたが 9 月に上昇、10 月に大きく下落し、方向感のない動きとなっている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果 DI：-31.5（かなり不調）

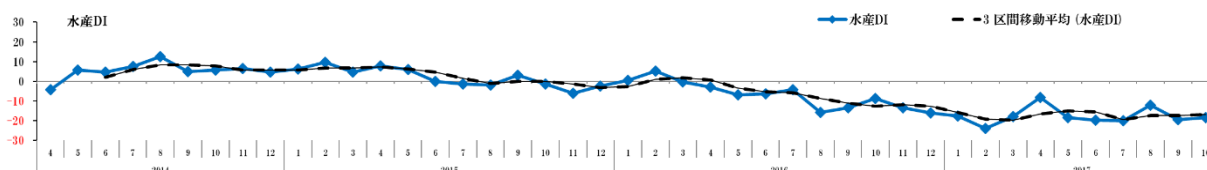
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	13.3	43.6	25.5	16.5	1.1	-12.9
青果（当月）	47.3	38.2	9.1	4.2	1.2	-31.5



前年に相場が高騰した翌年にあたり、サラダ関連を中心に前年に比べ大幅な相場安となり、単価が大きく下落したため、全体としてはかなり不振となった。気温の低下により鍋物需要が高まり、長ネギや菌茸類が好調となった。国産果物では、梨が好調は好調だが、みかんやリンゴは不調となった。

2. 水産 DI：-18.4（不調）

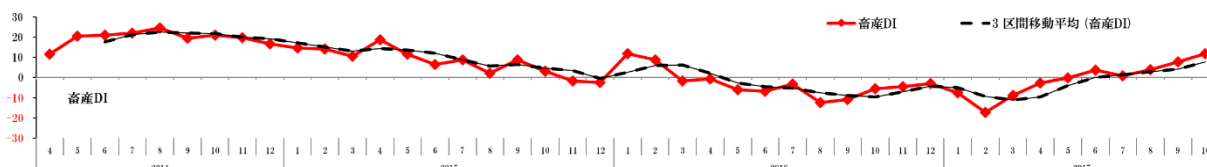
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	20.7	45.7	25.0	8.0	0.5	-19.5
水産（当月）	20.5	46.4	21.1	10.2	1.8	-18.4



前月同様に旬であるサンマや秋鮭が極端な不漁で入荷が少なく、価格が高騰しているため不調となった。比較的入荷が安定しているぶりやイワシは好調だったほか、気温の低下により鍋ものの食材の動きがよく、冷凍の蟹やタラなどが好調であった。刺身類は引き続きアニサキス報道の影響が続いているとの指摘が多い。

3. 畜産 DI：11.9（好調）

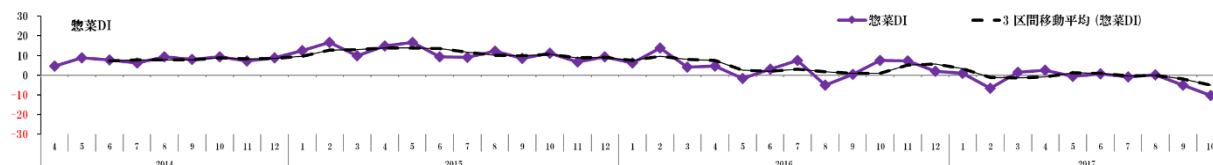
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	4.3	16.5	32.4	37.8	9.0	7.7
畜産（当月）	2.4	15.1	26.5	44.6	11.4	11.9



全般的に相場が高値で推移するなか、水産カテゴリーからの需要シフトも追い風となり好調となった。気温低下により鍋物やしゃぶしゃぶなどホットメニュー用食材が好調であり、鶏肉・豚肉は好調とするコメントが多い。牛肉は好不調が分かれているが、国産牛や高単価商品の動きがよいとの判断もみられた。

4. 惣菜DI：-10.2（不調）

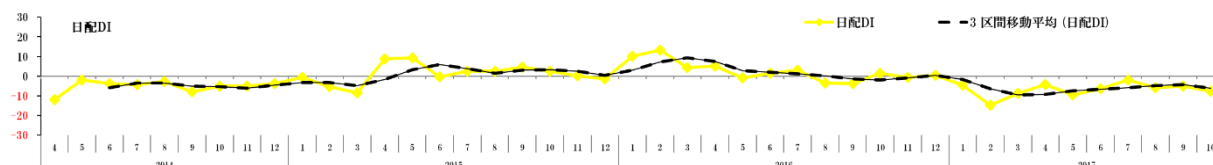
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	7.5	33.9	33.9	21.0	3.8	-5.1
惣菜（当月）	10.8	38.0	34.3	15.1	1.8	-10.2



気温の低下により、揚げ物やホットメニューなどに動きはみられるが、週末の天候不順で運動会の延期や中止が相次いだほか、秋の行楽需要に影響を受け不調となった。また土曜日が一日少ない曜日巡りによる影響も大きかった。引き続き O157 報道によるポテトサラダなどのサラダ類への影響を指摘するコメントが多い。気温の低下やアサニキス報道による影響を受け寿司関連は不調となった。一方で米飯類は秋の味覚を活用したメニューが好調だった。ハロウィン関連メニューの取り組みも成果をあげているが、当日の天候によりロスが発生した店舗もみられた。

5. 日配DI：-7.6（やや不調）

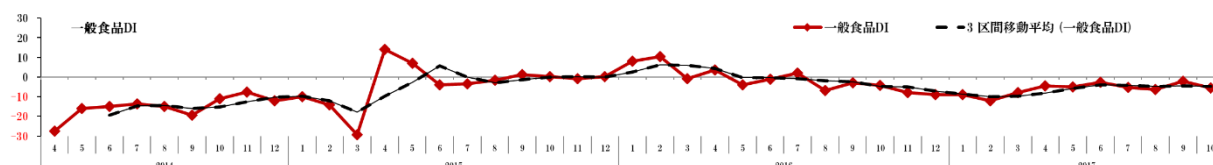
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	6.9	27.7	45.7	17.6	2.1	-4.9
日配（当月）	9.1	31.5	41.2	17.0	1.2	-7.6



気温の低下により、おでんや鍋用の練製品は動きがよかったが、前年との気温差でアイス類や乳製品やデザート類などの洋日配は不調とするコメントが多い。前年青果相場高騰の際、好調であった漬物や冷凍野菜などは反動減がみられている。ヨーグルトは好不調がわかれている。他業態との競合の厳しさを指摘するコメントもみられた。

6. 一般食品：-5.6（やや不調）

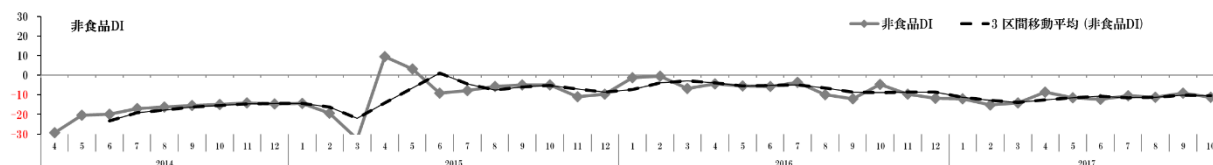
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	6.4	25.7	39.6	26.7	1.6	-2.1
一般食品（当月）	7.9	29.1	43.0	17.6	2.4	-5.6



気温の低下により、スープ類やカレー、鍋つゆ、麺類などの秋冬物商材の動きがよかった、一方で飲料やビールなどは不調となった。米類は新米の価格がやや上昇しているなか、ブランド米を訴求して好調となっている店舗が多い。ハロウィンに関連した菓子類は好調に推移し、特に大袋菓子の動きがよかった。

7. 非食品 DI：-11.3（不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	9.9	34.8	40.9	10.5	3.9	-9.1
非食品（当月）	16.3	33.1	35.0	10.6	5.0	-11.3



気温の低下によりカイロや入浴剤など動きがよくなっているが、紙製品の不振やタバコの低迷に加え、ホームセンターやドラッグストアなどとの価格競争の影響が大きく受けているとのコメントが多い。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20 好調： 20 ～ 10 やや好調： 10 ～ 0
 やや不調： 0 ～ -10 不調： -10 ～ -20 かなり不調： -20 ～

2017 年 11 月調査（10 月実績）キーワード TOP3

1. 来客数減（週末台風・降雨日多い、土曜日が一日少ない）
2. 前年より低い気温
3. 青果相場安

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

10 月実績速報版 193 社

9 月実績確報版 175 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp